

ジェニファー・コリンズさん招聘による健康教育研修内容

橋本紀子・工藤洋子

はじめに

本学と提携関係にある西オーストラリア・カーテン工科大学衛生学部で、国際保健学およびヘルス・プロモーションのゼミを担当しているジェニファー・コリンズさんを本学に招き、講義やワークショップをしていただいた。以下に、開催にいたる経過とその内容を簡単に記録したい。

開催経過はかつて、衛生学部内にあるアカデミック・オフィスの駐在員となり、ジェニーのゼミに参加したことのある、国際協力学研究室の磯田厚子助教授の発案で、その2年後にアカデミック・オフィスに行った橋本が、具体化のために協力した形となった。ジェニー、磯田両先生とも発展途上国でのヘルス・プロモーションのためのワークショップなどについて豊富な経験をもっていたこと、橋本は本号の対談で木原氏も強調しているように、日本の若者たちへの急激な HIV/AIDS の感染状況に対処できる性教育の必要性を感じていたことなどから、この企画は的確な人材と時宜にかなったものであった。

学外者にも公開してのセミナーと坂戸校舎での2日間のワークショップ、駒込で二部学生の総合演習の一部として行った短いワークショップには、学生ばかりではなく、学内の教職員も参加したり、覗いたりして、教育方法の点でも大きな影響を受けた。後期の講義、ゼミなどに活かした先生も出てきている。特に2日間のワークショップの細かい打ち合わせや教材づくりの指示、評価シートなどは磯田先生の尽力に依るところ大であった。橋本と教育学研究室および国際協力学研究室所属の院生、研究生もジェニーがメールで送ってくる教材の翻訳、パワーポイント作りなどに追われた。しかし、非常に実りある楽しい国際交流の機会となった。

また、学外からもそのとき使用したバナナなどの教材への問い合わせ、性教育に関する教育方法についての相談などが寄せられており、この面での社会的な要求の大きさが知られ、今後の取り組みの重要性が確認されている。

1 目的

- ・ 西オーストラリアでの健康教育関連分野—特に性教育、HIV/エイズの現状と具体的な教育内容を、教員・学生が学ぶ機会をもつこと。
- ・ 卒業生や学外者にも上記の学習の機会を提供すること。
- ・ カーテン工科大学公衆衛生学部との研究・教育交流を促すこと。

ジェニファー・コリンズさん招聘による健康教育研修内容

日程・内容・参加者

<セミナー>

9月7日 坂戸校舎にて 54名 (内学外=含む卒業生26名)

<ワークショップ>

9月10、11日 坂戸校舎にて 32名 (内同上学外者 8名)

9月12日 駒込校舎にて 37名 (内同上学外者 5名)

3 2Days ワークショップ活動内容

9月10日 <AM> Sexuality <PM> Safe Sex

11日 <AM> HIV/AIDS <PM> アサーティブネスと交渉スキルトレーニング

1日目 Am <Sexuality>

活動	目的	内容	備考・教材
1はじめに	・ワークショップの意義について	・グループ分け ・性をめぐる日本・オーストラリアの現状と比較	
2「セックス」とは？ -ブレインストーミング-	・食べる事もSexする事など人間の基本的欲求であり、自然な行為であることを知り、抵抗感を減少させる。	・なぜ食べるのか、なぜSexをするのかを考え、ポストイットに書き黒板に貼る。出された内容をカテゴリー分けし、ディスカッションを行う。	ポストイット
3人をあてよう！ ～BINGO～	ワークシートを使用し、様々な価値観・習慣を持つ人々がいることを知る。	・自分と同じ趣味、習慣、嗜好などを持っている人を探す。	ワークシート
4雑誌のコラージュ	目にする雑誌等に、性・ジェンダーに関してどんなことが訴えられているのか雑誌等を比較する。	グループで性・ジェンダーに関するものを切り貼りし、その情報が意味することを考え、各班発表する。	雑誌
5性差別の経験	生活で認識している性差別を考える。	該当する質問に経験がある場合立ち上がる。	
6写真からみる価値観 ～ポジティブ・ネガティブなイメージ～	各自がどんな価値観・生き方を大切にしているかを知り、「互いを尊重する事」を学ぶ。	人間・動物・自然といった地球上にある全てが写しだされた写真を並べ、自分が大切にしている事に近い写真を選び、なぜそれを選んだか発表する。	様々な風景の写真(家族・自然・動物・景色など)
7ジェンダーとセクシュアリティ	ジェンダー及びセクシュアリティに関する正しい理解を得る。	定義、それらに関連する事実について学ぶ。	パワーポイント
8ホモセクシュアルの「社会通念と事実」	現代のホモセクシュアルに対する差別的な社会通念に気づき、科学的事実を明らかにする。	問題の答えを考え、風船を膨らまし割ると正しい解答が書いてある。	・問題、解答用紙 ・風船、紐
9そのときあなたはどうか行動する？	事例から、擬似体験を通して性行動を考える。	事例検討 ～もし、友人がHIVだったら～	

1日目 Pm		< Safe Sex >	
活動	目的	内容	備考・教材
10 STI検査や感染に関連した感情	HIV感染を臨場感をもって学ぶ。	輪になり、HIV感染者が外輪をまわり、肩をたたかれた人が感染したという設定。突然感染してしまった時を想定し、どのように感じたかディスカッションを行う。	
11 STI感染-握手ゲーム	ゲームを通して感染力や予防方法について正しい知識を学ぶ。	①2人に手袋(コンドーム代わり)をしてもらう。 ②挨拶をしながら3人の人と握手をする。 ③実はその中にSTI感染者がいたという設定で感染している人に帽子をかぶせる。(3名) ④帽子をかぶった感染者と握手をした人をすわらせる。 ⑤手袋をしている人は守られて感染していないことが明らかになる。	・手袋 ・感染名の書いた帽子
12 HIV感染-水の交換ゲーム	ゲームを通して感染力や予防方法について正しい知識を学ぶ。	①水の入ったコップを全員に渡す。 ②はじめに感染者として内緒で1人は酔が入ってるコップを持たせる。 ③コップ内の匂いを確認したら、3名に各自水の交換をする。 ④3名にコップの上からビニール(コンドームの代わり)をかぶせる。 ⑤再度、各自3名と水の交換をする。 ⑥終わったら、コップの匂いを確認。 ⑦ほぼ全員が酔の匂いがすることを確認。ビニールをした人は感染していない人もいるが、感染していると知らずにビニールをつけた場合があることがわかる。	・紙コップ ・水 ・酔(白い酢) ・ビニール袋
13 オリジナルにコンドームを使ってみよう!!	コンドームを身近なものとして認識し、コンドームの性質を理解する。	通常の使い方ではなく、膨らます、風船にする、踏んでみるなど。また、生活に代用出来るとしたら何に代用できるか意見交換。	コンドーム
14 コンドームを使う順序のカード並べ	パートナーと性をともにするとき実際にどういう過程でコンドームを使用するのか知識と男性の生理学を学ぶ。	コンドームを使用する過程を書いた、順番カードをグループで話し合いながら、並べていく。他のグループはどう並べているか、比較・検討する。	順序カード
15 コンドームを使う実習	実際の場面で役立つスキルを身につける。	①2人1組になる。 ②暗い部屋を想定するため、1人はアイマスクをしてコンドームを扱う。 ③部屋を明るくして、正しく装着されているか確認する。 ④今度は部屋が明るいままコンドームを装着してみる。 ⑤暗い部屋、明るい部屋での装着の違いについて比較検討する。	・コンドーム ・アイマスク ・性教材(バナナ型教材)
16 本日の活動についての感想	最も良いスキル・知識、誤っていた情報は何か、総括できる。今後改善、利用していく為にはどう活動する事が必要か見いだせる。	全員で今日の活動について、最も良い、悪い行動、正しい知識、誤った知識、氾濫する誤認情報、自分の価値観の変容についてディスカッションを行う。	

ジェニファー・コリンズさん招聘による健康教育研修内容

2日目 Am

<HIV/AIDS>

活動	目的	内容	備考・教材
1 「感染のリスク」を考えてみる -高リスク・低リスク	感染について正しい知識を身につける	問題から高リスクと思うもの、低リスクと思うものに場所移動する。感染についての正しい解答とともに、教育について意見交換をする。	・高・低リスクの問題
2 価値観を形成する上で影響をうけたこと -グループ討議	自己価値観の形成過程を振り返り、他の人との比較によって、自分の価値観を相対化する。	都市・地方、父母、兄弟などから影響を受けた事、尊敬する人は誰かを模造紙に書く。	・模造紙
3 健康教育のモーリン・モデル -5つの新しい信念	健康教育の掲げる目的について知る。	講義	・プリント



<2日目午後行った 感染のシミュレーションゲーム>

2日目Pm <アサーティブネスと交渉スキルトレーニング>

活動	目的	内容	備考・教材
4 HIV/AIDSって何?	他国と比較しながら、日本における性、HIV感染の現状を知り、性教育において何が必要なのか考える。	オーストラリアの性、HIVの状況と日本の性HIVの状況について。	
5 「HIV感染」ビデオ	感染していく過程を視覚から学ぶ。日本の性、HIV教育との違いについて考える。	オーストラリアの性、HIVのビデオをみる。	・オーストラリアの性・HIVビデオ
6 感染のシミュレーションゲーム	感染経過を劇を通して学ぶ。	皮膚、病原体、T細胞等になって劇形式で展開する。	・それぞれの役らしい服装や小道具
7 アサーティブネス -自分の意見が言えるとき-	日常において、自分は何を考え行動しているのか?振り返るとともに、様々な人々の価値観や行動を理解する。	事例に対し、最も、いつもそう思う、全くそう思わないにわかれ、ディスカッションをする。	
8 圧力をはねのける -ロールプレイ-	どんな状況であっても、意見を言えるようになる。心理的圧力をコントロールする訓練する。	状況設定、役割転換をし、パートナーとのやりとりから相手の圧力をはねられるよう、意見を言う。	・プレッシャーラインシート
9 本日の感想と意見、質問		今日の感想や質問、今後の課題について。	

